

「課題解決型高度医療人材養成プログラム」における工程表

申請担当大学名	山口大学
連携大学名	大阪大学, 滋賀医科大学, 愛知医科大学, 東京慈恵会医科大学
事業名	慢性の痛みに関する教育プログラムの構築

① 本事業終了後の達成目標

	本事業終了後の達成目標
達成目標	<p>医療系学生の達成目標:生物心理社会モデルに基づいた慢性痛の診療の重要性を理解する。 医療者の達成目標:生物心理社会モデルに基づいた慢性痛の診療の重要性を理解し、適切な対応法を身につける。</p> <p>具体的には</p> <ol style="list-style-type: none"> 申請大学と連携大学とで慢性の痛みに関する教育プログラムの構築委員会を設立し、共通教育コアカリキュラム, 教育実習方法を開発し、慢性痛教育センターで実施体制を構築する。 山口大学, 連携大学, 評価組織が協力して, 教育プログラムの教材を作成し, 順次開始, 連携大学にe-ラーニング等で提供する。 <p>例として</p> <ol style="list-style-type: none"> 「痛み医療の総論,疫学」,「慢性筋骨格痛,神経障害性疼痛」,「運動療法と栄養」・・・山口大学 「頭痛と歯科口腔領域の痛みと治療」,「心理療法(認知行動療法)」,「事故・労災や心理社会背景を持ち長引く痛みの対応」・・・大阪大学 「痛みの解剖生理学」,「薬物療法」,「インターベンショナル治療」・・・滋賀医科大学 「生物心理社会モデルと痛みの評価法」,「痛みが主訴になりうる精神科的徴候」,「運動療法と栄養」・・・愛知医科大学 「考え方とルール,実践コミュニケーションスキル,チーム構築と運営」,「がん・非がんにおけるオピオイドの使い方,その他の治療」・・・東京慈恵会医科大学 <p>で分担して共通教育コアカリキュラムの教材作成を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 連携大学間での講師の相互派遣・人事交流により専門家を養成し,関連学会等に普及させ,全国均てん化を図る。 各連携大学の学部教育に,教育プログラムとして組み入れる。 NPOいたみ医学研究情報センターによる定期的な評価を受け,教育成果の改善を図り,永続的な組織を作る。

② 年度別のインプット・プロセス,アウトプット,アウトカム

		H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
インプット・プロセス (投入,入力,活動,行動)	定量的なもの	・新規受入れ:一般医師150名	・新規受入れ:一般医師300名 ・新規受入れ:医学部学生500名 ・新規受入れ:歯学部学生50名 ・新規受入れ:薬学部学生50名 ・新規受入れ:若手医療者30名	・新規受入れ:一般医師300名 ・新規受入れ:医学部学生500名 ・新規受入れ:歯学部学生50名 ・新規受入れ:薬学部学生50名 ・新規受入れ:若手医療者30名	・新規受入れ:一般医師300名 ・新規受入れ:医学部学生500名 ・新規受入れ:歯学部学生50名 ・新規受入れ:薬学部学生50名 ・新規受入れ:若手医療者30名	・新規受入れ:一般医師300名 ・新規受入れ:医学部学生500名 ・新規受入れ:歯学部学生50名 ・新規受入れ:薬学部学生50名 ・新規受入れ:若手医療者30名
	定性的なもの	<p>プログラム実施体制の準備</p> <ul style="list-style-type: none"> 慢性痛教育センターを設置 共通教育コアカリキュラム策定WG設立 HPの開設,リーフレットの作成 NPO法人による評価委員会開催 学生募集要項の作成 <ol style="list-style-type: none"> 共通教育コアカリキュラムWGを開催 各連携大学の特徴あるプログラムの登録,試行 連携大学間や協力施設への教員の交流開始 教員・学生教育や疫学研究へ用いるためのフィールド調査,海外視察,アンケート調査開始 学生交流のための単位互換制度の準備や学士課程教育プログラム体制の準備・構築 NPO法人による外部評価委員会開催 e-ラーニング用の電子コンテンツ作成システム(山口大学)並びに視聴システム(山口大学)構築と試行 	<p>教育プログラム実施(共通教育コアカリキュラム実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> 臨床実習開始 医療者セミナー開始 NPO法人による外部評価委員会開催 <ol style="list-style-type: none"> e-ラーニングによる共通教育コアカリキュラムを行うための整備とコンテンツ視聴システムの機能向上(ウェブコンテンツの作成とブラッシュアップ) 各連携大学の特徴あるプログラムの実施 生物心理社会モデルに基づく慢性痛の重要性と適切な対応方法の医療者向けのセミナーを開催 NPO法人による外部評価委員会開催 	<p>教育プログラム修正(カリキュラムの修正)</p> <ul style="list-style-type: none"> 医学系歯学系学部学生臨床講義の開始 臨床実習実施 医療者セミナーの実施 他の教育機関への普及対策開始 海外視察調査 NPO法人による評価委員会開催 教育プログラムの修正 <ol style="list-style-type: none"> 臨床講義を行うための整備とコンテンツ作成(ウェブコンテンツの作成とブラッシュアップを含む) 各連携大学の特徴あるプログラムの実施 生物心理社会モデルに基づく慢性痛の重要性と適切な対応方法の医療者向けのセミナーを開催 他の医療機関への普及のためシンポジウム開催 教員・学生教育や疫学研究へ用いるためのフィールド調査,海外視察 NPO法人による外部評価委員会開催 評価を教育プログラムに反映 	<p>修正教育プログラムの実施(修正カリキュラムの実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> 医学系歯学系学部学生臨床講義の実施 臨床実習実施 医療者セミナーの実施 NPO法人による評価委員会開催 <ol style="list-style-type: none"> 臨床講義を行うための整備とコンテンツ作成(ウェブコンテンツの作成とブラッシュアップを含む) 各連携大学の特徴あるプログラムの実施 生物心理社会モデルに基づく慢性痛の重要性と適切な対応方法の医療者向けのセミナーを開催 NPO法人による外部評価委員会開催 評価を教育プログラムに反映 	<p>修正教育プログラムの検証(修正カリキュラムの検証)</p> <ul style="list-style-type: none"> 医学系歯学系学部学生臨床講義の実施 臨床実習実施 医療者セミナーの実施 全国慢性の痛み教育実態調査実施 NPO法人による評価委員会開催 事業終了 <ol style="list-style-type: none"> 臨床講義を行うための整備とコンテンツ作成(ウェブコンテンツの作成とブラッシュアップを含む) 各連携大学の特徴あるプログラムの実施 生物心理社会モデルに基づく慢性痛の重要性と適切な対応方法の医療者向けのセミナーを開催 NPO法人による外部評価委員会開催 事業を終了した後,評価を教育プログラムに反映し,事業継続をコンソーシアム等で行う。

アウトプット (結果, 出力)	定量的なもの		・新規受入れ: 一般医師300名 ・新規受入れ: 医学部学生500名 ・新規受入れ: 歯学部学生50名 ・新規受入れ: 薬学部学生50名 ・新規受入れ: 若手医療者30名	・新規受入れ: 一般医師300名 ・新規受入れ: 医学部学生500名 ・新規受入れ: 歯学部学生50名 ・新規受入れ: 薬学部学生50名 ・新規受入れ: 若手医療者30名	・新規受入れ: 一般医師300名 ・新規受入れ: 医学部学生500名 ・新規受入れ: 歯学部学生50名 ・新規受入れ: 薬学部学生50名 ・新規受入れ: 若手医療者30名	・新規受入れ: 一般医師300名 ・新規受入れ: 医学部学生500名 ・新規受入れ: 歯学部学生50名 ・新規受入れ: 薬学部学生50名 ・新規受入れ: 若手医療者30名
	定性的なもの	・閲覧可能な講義の蓄積 ・連携大学間や協力施設への教員派遣, 学生交流 ・疫学研究業績, 基盤研究業績 ・他大学のカリキュラムへ触れる機会の増加	・閲覧可能な講義の蓄積 ・連携大学間や協力施設への教員派遣, 学生交流 ・疫学研究業績, 基盤研究業績 ・他大学のカリキュラムへ触れる機会の増加	・閲覧可能な講義の蓄積 ・連携大学間や協力施設への教員派遣, 学生交流 ・疫学研究業績, 基盤研究業績 ・他大学のカリキュラムへ触れる機会の増加	・閲覧可能な講義の蓄積 ・連携大学間や協力施設への教員派遣, 学生交流 ・疫学研究業績, 基盤研究業績 ・他大学のカリキュラムへ触れる機会の増加	・閲覧可能な講義の蓄積 ・連携大学間や協力施設への教員派遣, 学生交流 ・疫学研究業績, 基盤研究業績 ・他大学のカリキュラムへ触れる機会の増加
アウトカム (成果, 効果)	定量的なもの	・連携5大学の教育プログラムの均てん化10%	・連携5大学の教育プログラムの均てん化20%	・連携5大学の教育プログラムの均てん化30%	・連携5大学の教育プログラムの均てん化40%	・連携5大学の教育プログラムの均てん化50%
	定性的なもの	・医療者の達成目標: 生物心理社会モデルに基づいた慢性痛の診療の重要性を理解し, 適切な対応法を身につける。 ・診療現場において適切な対応ができる医師を養成する。 ・生物心理社会モデルに基づいた新しい医学教育・研究を推進する。	・医療系学生の達成目標: 生物心理社会モデルに基づいた慢性痛の診療の重要性を理解する。 ・卒後には, 診療現場における適切な対応ができる医療従事者を養成する。 ・医療者の達成目標: 生物心理社会モデルに基づいた慢性痛の診療の重要性を理解し, 適切な対応法を身につける。 ・診療現場において適切な対応ができる医師を養成する。 ・生物心理社会モデルに基づいた新しい医学教育・研究を推進する。	・医療系学生の達成目標: 生物心理社会モデルに基づいた慢性痛の診療の重要性を理解する。 ・卒後には, 診療現場における適切な対応ができる医療従事者を養成する。 ・医療者の達成目標: 生物心理社会モデルに基づいた慢性痛の診療の重要性を理解し, 適切な対応法を身につける。 ・診療現場において適切な対応ができる医師を養成する。 ・生物心理社会モデルに基づいた新しい医学教育・研究を推進する。	・医療系学生の達成目標: 生物心理社会モデルに基づいた慢性痛の診療の重要性を理解する。 ・卒後には, 診療現場における適切な対応ができる医療従事者を養成する。 ・医療者の達成目標: 生物心理社会モデルに基づいた慢性痛の診療の重要性を理解し, 適切な対応法を身につける。 ・診療現場において適切な対応ができる医師を養成する。 ・生物心理社会モデルに基づいた新しい医学教育・研究を推進する。	・医療系学生の達成目標: 生物心理社会モデルに基づいた慢性痛の診療の重要性を理解する。 ・卒後には, 診療現場における適切な対応ができる医療従事者を養成する。 ・医療者の達成目標: 生物心理社会モデルに基づいた慢性痛の診療の重要性を理解し, 適切な対応法を身につける。 ・診療現場において適切な対応ができる医師を養成する。 ・生物心理社会モデルに基づいた新しい医学教育・研究を推進する。

③ 推進委員会所見に対する対応方針

要望事項	内容	対応方針
①	事業の実施に当たっては, 一部の教員や一部の組織のみで実施するのではなく, 学長・学部長等のリーダーシップの下, 事業の責任体制を明確化し, 全学的な実施体制で行うこと。また, 事業期間終了後も各大学において, 長期的な展望に基づく具体的な事業継続の方針・考え方について検討し, 自立化した事業体制を構築すること。	学長, 附属病院長をトップとした組織としている。また, 共同事業契約書により, 事業内容, 事業期間, 費用, 財産の管理, 実績報告等の連携の形態を規定するとともに, 各大学の事業推進担当者及び役割分担を定め, 責任体制を明確にする。
②	自己点検・評価及び改善を行った上で, 全国の模範となるよう体系的な教育プログラムを展開すること。その際, 履修する学生や医療従事者等のキャリアパス形成につながる体制を構築すること。また, 客観的なアウトプット, アウトカムを年度ごとに明確にし, その達成状況の工程管理を確実に行うこと。	毎年度, NPO法人いたみ医学研究情報センターの構成メンバーの評価を受け, 事業運営に反映させる仕組みを持つ。また, 年度ごとの事業内容を文部科学省に報告する。
③	成果や効果は可能な限り可視化した上で, 地域や社会に対して分かりやすく情報発信すること。また, 他大学の参考となるよう, 特色ある先進的な取組やモデルとなる取組について, 実現するためのノウハウ, 留意点等についても積極的に情報発信するなど, 成果等の普及・展開に努めること。	事業による成果や効果は, HP上で地域や社会に公開し, 積極的に情報発信する。eラーニング動画の一部を公開する。

④ 推進委員会からの主なコメントに対する対応方針

推進委員会からの主なコメント(充実を要する点)	対応方針
本事業における責任体制及び5大学の連携方法、役割分担をより明確化する必要がある。	学長、附属病院長をトップとした組織としている。また、別添共同事業契約書(案)により、事業内容、事業期間、費用、財産の管理、実績報告等の連携の形態を規定するとともに、各大学の事業推進担当者及び役割分担を定め、責任体制を明確にする。
学生への教育内容を具体化するとともに、現職のチーム医療教育の観点も検討する必要がある。	コアカリキュラムを基本とし、学生及び医療職種別の教育コンテンツを準備する予定である。
本プログラムの参加者のモチベーションや教育効果の向上にもつなげるため、本プログラムを通じて養成される人材像とその具体的なキャリアプランを明確にする必要がある。	現在のところは実質的なライセンスには直結しないが、修了証明書を発行することによって、各人のキャリアアップの一助となる。
5大学の連携の強みを生かし、新たな展開につながるような実効性のある計画・取組が必要とされる。	各大学における事業の業績・成果を活かし、当該領域を分担することで慢性疼痛教育コアプログラムを作成する計画がある。
学部学生及び大学院、一般医師・歯科医師コースにおける履修科目等が同一になっているが、それぞれのレベルに応じた教育内容・評価とすること。	上述のように、コアカリキュラム上では同一であるが、シラバスでその違いを明確にする予定である。
補助期間終了後も本事業を確実に継続するための計画を具体的に検討する必要がある。	本事業は、コンソーシアムで継続させる。また、その進捗状況によっては大学に帰属させる。
他大学等の参考となるよう本事業に係る取組や成果等を積極的に情報発信するなど、事業の普及・展開に努める必要がある。	成果の公表として、HPでシラバスや動画を掲載する。